

①入域観光客数概況について

1. 入域観光客数概況（26年4月～9月実績、10月～12月見通し）

	10月	11月	12月
※航空会社ヒアリングならびに沖縄県内発着便の提供座席数より推測			
国内空路			
海外空路			
※クルーズ客船の寄港予定より推測			
国内海路			
海外海路			

〈OCVB観光天気予報〉

	対前年 105%以上水準
	対前年 100%以上-105%未満
	対前年 95%以上-100%未満
	対前年 90%以上-95%未満
	対前年 90%未満水準

		4月(実績)	5月(実績)	6月(実績)	7月(実績)	8月(実績)	9月(実績)	上期計	10月(予測)	11月(予測)	12月(予測)	10-12月
2026年度	空路 国内	639,200	613,200	576,600	691,500	681,900	674,400	3,876,800	712,000	662,000	651,000	2,025,000
	海外	192,600	190,400	176,200	197,100	191,800	187,100	1,135,200	201,000	194,000	209,000	604,000
	合計	831,800	803,600	752,800	888,600	873,700	861,500	5,012,000	913,000	856,000	860,000	2,629,000
	海路 国内	6,100	4,600	3,800	2,400	4,500	1,900	23,300	2,500	6,600	2,300	11,400
	海外	67,300	29,900	48,400	72,900	45,700	34,300	298,500	40,500	60,000	80,100	180,600
	合計	73,400	34,500	52,200	75,300	50,200	36,200	321,800	43,000	66,600	82,400	192,000
前年度比	空路海路合計	905,200	838,100	805,000	963,900	923,900	897,700	5,333,800	956,000	922,600	942,400	2,821,000
	国内合計	645,300	617,800	580,400	693,900	686,400	676,300	3,900,100	714,500	668,600	653,300	2,036,400
	海外合計	259,900	220,300	224,600	270,000	237,500	221,400	1,433,700	241,500	254,000	289,100	784,600
	国内	103.4%	104.2%	96.8%	98.5%	87.4%	99.0%	97.8%	98.7%	100.2%	100.8%	99.8%
	海外	114.4%	114.2%	103.8%	111.0%	95.0%	108.0%	107.3%	110.6%	123.3%	128.4%	120.4%
	合計	105.8%	106.4%	98.3%	101.0%	88.9%	100.8%	99.8%	101.1%	104.6%	106.3%	103.9%
前年度比	海路 国内	203.3%	36.2%	97.4%	104.3%	145.2%	45.2%	79.8%	64.1%	366.7%	115.0%	148.1%
	海外	72.1%	39.9%	69.7%	110.8%	51.1%	38.2%	61.9%	51.1%	80.6%	154.3%	87.9%
	合計	76.1%	39.4%	71.2%	110.6%	54.3%	38.6%	62.9%	51.7%	87.4%	152.9%	90.1%
	空路海路合計	102.6%	99.5%	96.0%	101.7%	86.0%	94.6%	96.4%	96.9%	103.1%	109.3%	102.8%
	国内合計	104%	103%	97%	99%	88%	99%	98%	99%	101%	101%	100%
	海外合計	99%	91%	94%	111%	82%	84%	93%	93%	110%	135%	111%

■概況

国内入域：

- 空路は、10月は国内線の増減便や台風30号の影響を受け、前年を下回る見込み。
11月は、冬ダイヤによる増減便があるものの、修学旅行の本格化や「首里城正殿」の一般公開などによる来訪需要が期待され、前年を上回る見込み。12月は、「第40回記念NAHAマラソン」などによる来訪需要が期待され、前年を上回る見込み。
- 海路は、10月には那覇発着のフライ＆クルーズが複数回実施された。11月にはMSCベリッシマの東京発やDIAMOND PRINCESSの横浜発クルーズなども予定されており、11月は前年を大きく上回る見込み。

海外入域：

- 空路は、10月は台湾方面を中心に堅調に推移し、前年を上回る見込み。
11月は、台北＝那覇線、シンガポール＝那覇線の増便に加え、12月には高雄＝那覇線の新規就航も予定されていることから、前年を大きく上回る見込みである。
- 海路は、10月は基隆発や香港発などの寄港があったものの、前年より寄港回数が少なく、前年を下回る見込み。11月も寄港回数が前年を下回る一方、12月は前年にはなかったマニラ発の大型クルーズも予定されており、前年を大きく上回る見込み。

①入域観光客数概況について

1. 入域観光客数概況（26年4月～9月実績、10月～12月見通し）

10月

空路

（国内）71.2万人（25年10月対比 98.7%）と見込む。

（海外）20.1万人（25年10月対比 110.6%）となる見通し。

台北＝下地島路線

スターラックス航空：10月1日～24日 週3便→週4便へ増便（月・水・土・日）

台北＝那覇路線

JTA：10月25日～3月27日 1日1往復→2往復へ増便（デイリー）

台中＝下地島路線

スターラックス航空：10月25日～3月27日 週4便→週2便へ減便（水・土）

シンガポール＝那覇路線

スクート：10月25日～3月27日 週4便→週5便へ増便（月・水・木・土・日）

ドンムアン-台北-那覇路線

タイ・ライオン・エア：10月26日～3月27日 週4便→週2便へ減便（月・金）

海路

（国内）2,500人（25年10月対比 64.1%）となる見通し。

（海外）4.1万人（25年10月対比 51.1%）となる見通し。

寄港本数：22本（25年10月：33本）

国内クルーズ：6本（東京・那覇発）

海外クルーズ：15本（台湾/基隆、香港、中国/上海・深圳、韓国/ソウル）

石垣港・平良港のみ寄港は4本。

11月

空路

（国内）66.2万人（25年11月対比 100.2%）と見込む。

（海外）19.4万人（25年11月対比 123.3%）となる見通し。

海路

（国内）6,600人（25年11月対比 366.7%）となる見通し。

（海外）6.0万人（25年11月対比 80.6%）となる見通し。

寄港本数：20本（25年11月：27本）

国内クルーズ：7本（東京・横浜・大阪発）

海外クルーズ：13本（台湾/基隆、香港）石垣港・平良港のみ寄港は6本。

12月

空路

（国内）65.1万人（25年12月対比 100.8%）と見込む。

（海外）20.9万人（25年12月対比 128.4%）となる見通し。

高雄＝那覇路線

（新）ジェットスター・ジャパン：12月6日～新規就航（週3便予定）

海路

（国内）2,300人（25年11月対比 115.0%）となる見通し。

（海外）8.0万人（25年11月対比 154.3%）となる見通し。

寄港本数：29本（25年12月：16本）

国内クルーズ：10本（東京・横浜・那覇発）

海外クルーズ：19本（台湾/基隆、香港、中国/上海、マニラ）石垣港・平良港のみ寄港は6本。

（空路）国内：県外発沖縄県内空港着の搭乗旅客数想定のうち、観光客の混在率をかけたもの

海外：海外発沖縄県内空港着の搭乗旅客数想定

（海路）国内：乗船客数想定のうち日本国籍のもの

海外：乗船客数想定のうち日本以外の国籍のもの

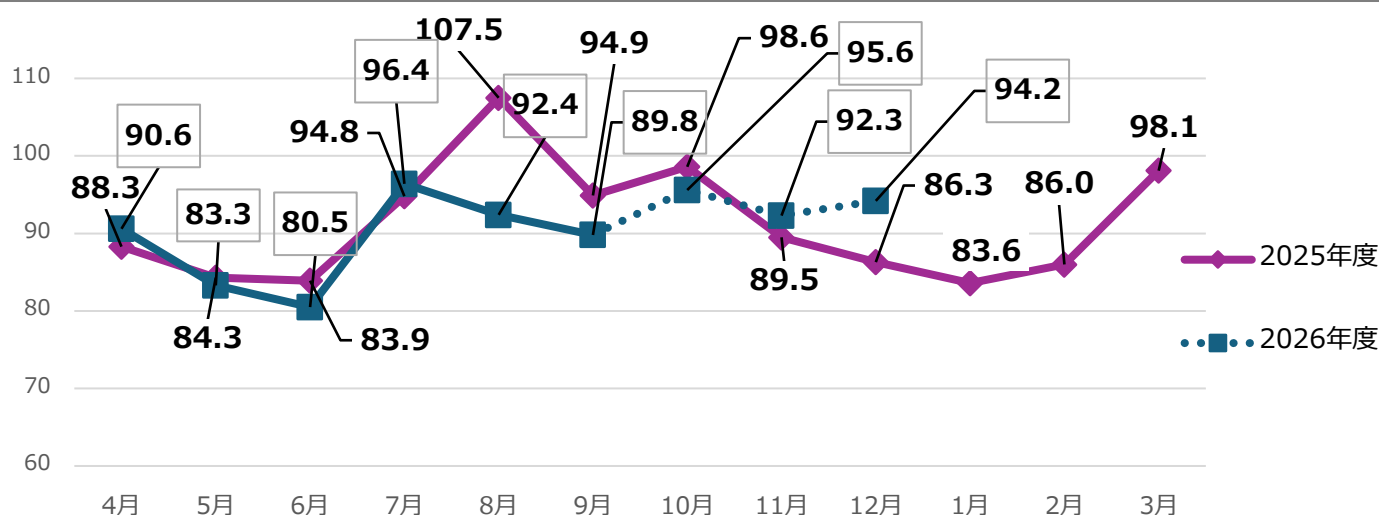
※国内クルーズ⇒発地が国内 海外クルーズ⇒発地が海外

①入域観光客数概況について

2. 入域観光客数概況グラフ

入域観光客(合計)

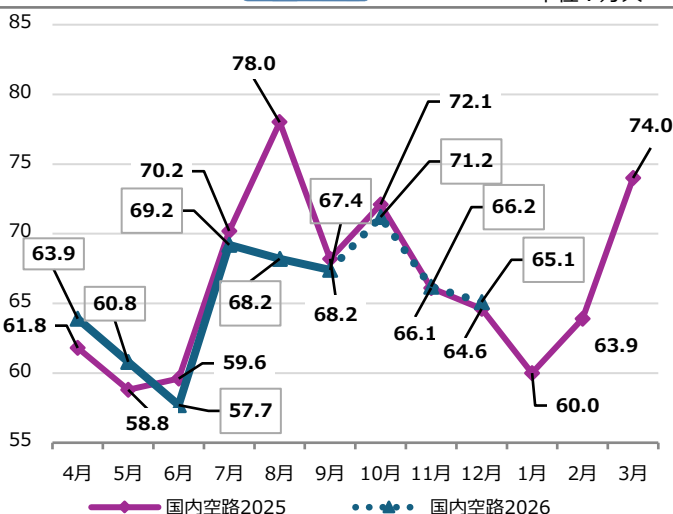
単位: 万人



入域観光客(空路)

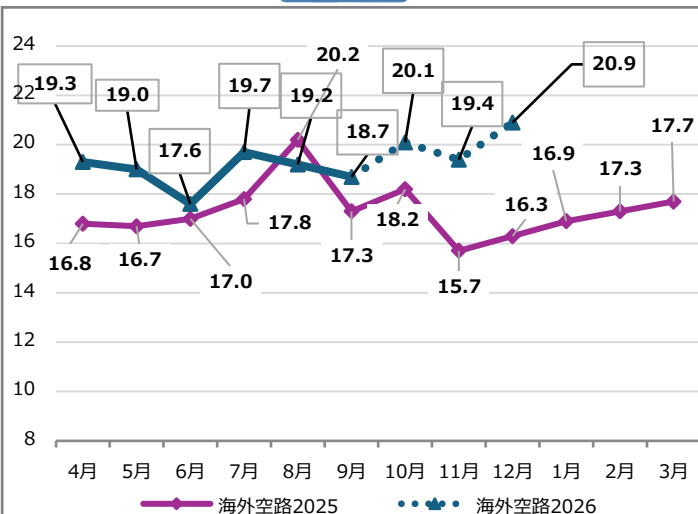
国内

単位: 万人



海外

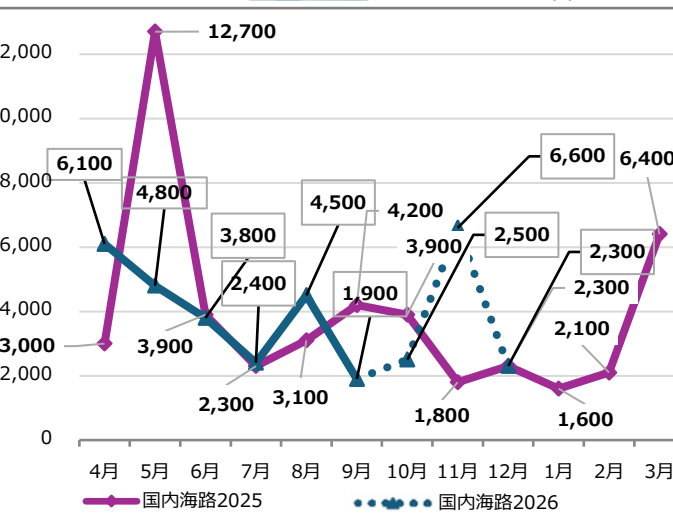
単位: 万人



入域観光客(海路)

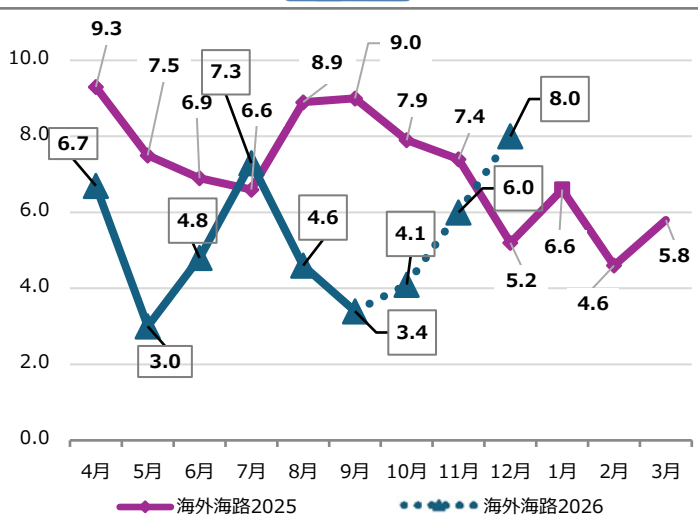
国内

単位: 人



海外

単位: 万人



OCVBと長野県観光機構との連携協定に基づく取り組みについて

JTA松本チャーター便運航決定！空港歓迎式の実施について

OCVBでは、下記商談会の開催にあわせ、長野県、長野県観光機構および参加事業者がJTAチャーター便にて来沖することから、両県のさらなる観光および経済交流の促進を目的に、那覇空港にて歓迎式を実施いたします。

松本空港－那覇空港間を結ぶJTAチャーター便は、2021年に初めて実施され、今年が6回目になります。

また、長野県との連携によるチャーター便の運航は、2010年4月から2026年12月までに累計194便となる見込みです（JTA32便、FDA162便）。近年も運航便数は増加しており、2025年度は22便、2026年度は32便を予定しています。特にFDAでは、個人向け航空券の販売を伴うプログラムチャーター便の運航も拡大しており、2025年の12便から2026年は22便へと増加しています。

【空港歓迎式 概要】

搭乗便：JTAチャーター便（ボーイング737-800）

日 時：2026年11月3日（火・祝） 14:00～15:30

場 所：那覇空港1F到着ロビー（予定）

内 容：歓迎セレモニー（横断幕にてお出迎え・ノベルティ配布 ほか）



※昨年度の空港歓迎式の様子

「長野県観光商談会・教育旅行商談会 in 沖縄」の開催について

令和5年6月に締結された「OCVBと一般社団法人長野県観光機構との連携に関する協定」に基づき、長野県及び長野県観光機構による沖縄県内での「長野県PR商談会」が開催されます。

参考：OCVB、長野県観光機構とMOU締結～沖縄・長野間のDMO連携強化、観光産業振興と地域社会の発展に向けて～（2023年6月6日）
<https://www.ocvb.or.jp/topics/4085>

【商談会 概要】

内 容：沖縄県内の旅行社、観光関連事業者を対象に、長野県の観光資源や教育旅行などのPRを行い、県間交流および相互総客の強化を図ります。

日 時：2026年11月4日（水） 13:30～16:30

（13:30～長野観光・教育旅行説明会、14:45～商談会）

会 場：オリオンホテル那覇 地下1階「ガジュマル」

参加者：【長野県】志賀高原、湯田中温泉、松本市、白馬村、安曇野市、信濃町、茅野市（蓼科高原）等

～12月よりFDAプログラムチャーター便が運航します～

今年12月に那覇－松本間のプログラムチャーター便の運航を予定しております。那覇－松本間のプログラムチャーター便は現在、航空券販売中ですので、県民のみならずにもぜひご利用いただければ幸いです。

OCVBでは、今回の取り組みを契機として、長野県との継続的な観光交流や商品造成、さらに双方の地域の魅力発信に向け、長野県観光機構と連携を深めてまいります。

【12月那覇⇄松本間のプログラムチャーター便情報】

運航日：2026年12月5日～24日

運航計画：22便（往路11便、復路11便）※今後変更される可能性があります。

詳細：<https://www.fujidream.co.jp/charterflight/mmj-oka/>

【お問い合わせ先】

（一財）沖縄観光コンベンションビューロー

国内事業部 国内プロモーション課 担当：宮城、長嶺

TEL：098-859-6125 Mail：domesticpr-m@ocvb.or.jp

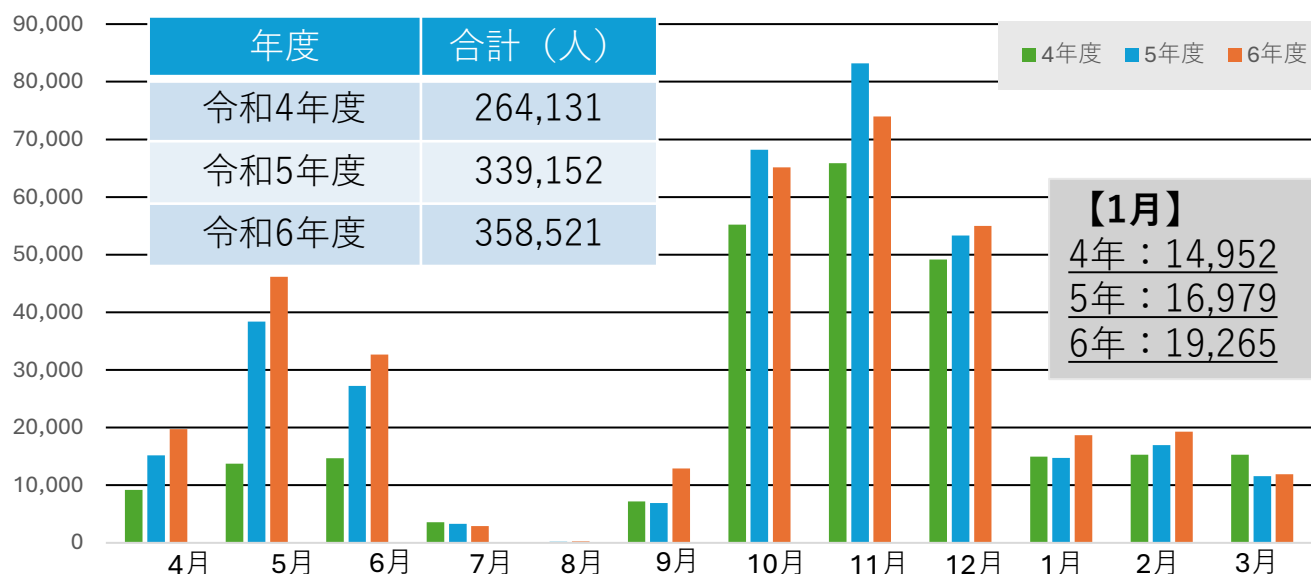
沖縄修学旅行入込状況調査と今後の展開について

沖縄修学旅行入込状況調査結果とOCVBの取組

OCVBでは、沖縄県から「令和8年度教育旅行推進強化事業」を受託し、沖縄修学旅行の誘致促進と受入体制の強化に取り組んでいます。

新型コロナウイルス感染症の収束後、修学旅行の実施状況は回復傾向にあります。また、繁忙期の10～12月への集中を緩和するため、1月への実施時期の変更を促す支援策やプロモーションを実施し、変更する学校が見られるなど、一定の成果が表れています。さらに、修学旅行受入に関する課題への対応や、県内の受入事業者を対象とした安全対策強化に関する勉強会を通じて、受入環境の整備に取り組んでいます。

修学旅行の月別入込人数（令和4～6年度）



沖縄修学旅行相談会in大阪 の開催について

沖縄修学旅行のさらなる誘致促進と受入体制の強化に向け、県外の旅行会社・学校関係者等と県内事業者との相談・情報交換の機会として、「令和8年度 沖縄修学旅行相談会 in 大阪」を開催します。

名 称：令和8年度 沖縄修学旅行相談会in大阪

開催日時：令和8年12月17日（木）

午前の部 10：00～13：00／午後の部 15：00～18：00

開催場所：コングレコンベンションセンター ルーム2+3（大阪府大阪市）

県内出展事業者数：合計43事業者（13社/9団体）

※参照元：沖縄県発表
修学旅行入込状況調査 令和6年度統計データ



※詳細はQRコードからご確認ください。

【今年度の主な誘致活動実績】

沖縄修学旅行セミナー in さいたま

開催日：令和8年8月19日（水）

来場者数：27人

開催場所：埼玉県さいたま市

県内出展事業者数：合計36事業者（11団体）

沖縄修学旅行相談会 in 東京

開催日：令和8年8月20日（木）

来場者数：93人

開催場所：東京都千代田区

県内出展事業者数：合計57事業者（19社/11団体）

【お問い合わせ先】

（一財）沖縄観光コンベンションビューロー

国内事業部 受入推進課 担当：城間、多和田

TEL：098-859-6129

Mail：shuryo@ocvb.or.jp

好調な国際線～2027年3月には307便が運航予定～

2027年3月27日から就航予定のユナイテッド航空 那覇-サンフランシスコ線など、昨今、国際線の新規就航が多くなっています。海外プロモーション課では、OCVBで毎月発刊している「OCVB News」掲載の「沖縄発着 国際線状況」のデータについて、2019年7月（コロナ前運航数ピーク時）と2027年3月予定分を比較し、運航便数や運航便の変化などを分析しました。

県内空港における国際線運航の変化

県内空港（那覇空港・石垣空港・下地島空港）

2019年7月 256便

→

2027年3月予定 307便（51便増）

2019年7月末			
空港	国	都市名	週便数
那覇空港	台湾	台北	63
		高雄	18
		台中	6
		台湾全体	87
	韓国	ソウル	56
		釜山	10
		大邱	7
		韓国全体	73
	香港	香港	34
	中国	杭州	4
		上海	21
		西安	2
		天津	2
		南京	6
		北京	4
		中国全体	39
	シンガポール	シンガポール	4
	タイ	バンコク	7
石垣空港	台湾	台北	2
	香港	香港	7
下地島空港	香港	香港	3
合計			256

2027年3月末予定			
空港	国	都市名	週便数
那覇空港	台湾	台北	84
		高雄	26
		台中	23
		台南	2
		台湾全体	135
	韓国	ソウル	46
		釜山	14
		清州	7
		韓国全体	67
	香港	香港	38
	中国	上海	2
	シンガポール	シンガポール	5
タイ	バンコク	26	
アメリカ	サンフランシスコ	3	
石垣空港	台湾	台北	4
		高雄	2
		台湾全体	6
	韓国	ソウル	7
下地島空港	香港	香港	4
	台湾	台中	2
		台北	3
		台湾全体	5
	韓国	ソウル	7
		釜山	2
		韓国全体	9
合計			307

※2027年3月末予定は2026年10月現在で把握している数字。今後増減の可能性あり。

市場別の変化と国際線増加の背景

市場別の主な変化

2019年7月と2027年3月予定を比較すると、台湾を中心に供給が拡大する一方、中国など縮小した市場もあり、市場ごとの増減には差がある。

国・地域	内容（2019年7月／2027年3月予定 比較）
台湾	台北便増もあるが、高雄・台中・台南の運航増の影響も大きい。
韓国	大邱や一部ソウル便の撤退で減。一方、清州や離島空港では新規就航あり。
香港	撤退や運航停止した航空会社もあるが、新たに就航した航空会社もあり増。
中国	北京・上海に加え、福州・杭州・西安・天津・南京等から運航があったが、現在は上海便のみのため大幅減。
タイ	現在3社のため増だが、2026年は香港経由で減便あり（2026年5月より運休）。
シンガポール	2025年7月撤退もあったが同年12月より新規航空会社が就航。2026年10月から増便で週5便。
マレーシア	2019年運航なし。2023年8月より就航していたが2026年6月より運休。
アメリカ	2027年3月27日週3便就航予定。

国際線増加の要因と今後の訪沖インバウンド

国際線増加は以下の理由が考えられます。

- 好調な訪日インバウンドの後押し
- 沖縄が持つインバウンドのポテンシャル（NYタイムズ「2026年に行くべき52か所」の選定等）
- 路線誘致活動や誘客プロモーションの効果

また、中東情勢に伴う機材調整（日本の地方都市への就航）なども理由の1つと推測されます。

国際線の増加に伴い、数多くの海外旅行者の来沖が見込まれる中、海外市場の特性を理解し、旅行者のニーズに合わせたインバウンド対応が今後更に求められると考えられます。OCVBでは、県内観光関連事業者を対象に、消費額データや航空データから市場を学ぶインバウンドセミナーを開催予定です。※別添チラシ参照

当該セミナーを通し、現状を好機と捉え、県内観光関連事業者の利益向上に繋がる取り組みを推進するとともに、各市場ターゲットに応じた様々なプロモーション（航空会社連携・商談会開催・イベント出展・招へい・デジタルPR等）も実施します。

国際線の増加は訪沖インバウンド増に繋がる一方、空港のキャパシティなど受入体制が重要なため、行政や空港等関係者と密に連携し、訪沖プロモーションに努めます。

【お問い合わせ先】

（一財）沖縄観光コンベンションビューロー 海外・MICE事業部 海外プロモーション課
担当：照屋（美）、富永 TEL：098-859-6127 Mail：globalpr-m@ocvb.or.jp

JNTOインセンティブ旅行商談会から見る傾向

タイ・シンガポール・韓国 3つの商談会を通して

OCVBは、下記の日程でタイ・シンガポール・韓国におけるJNTOインセンティブ旅行商談会に参加しました。3市場の商談結果から、共通して「沖縄への関心は高いが、航空便の供給・利便性や受入体制に関する課題（沖縄ならではの特別感のあるコンテンツ造成や外国語対応）が障壁」という構図が見られます。

これらの改善が今後の送客拡大の重要条件となります。また、市場ごとに求める価値や案件規模に対する明確な違いが確認できましたので、下記の表にまとめました。

各市場では沖縄に対する理解度や沖縄の「検討・販売段階」が異なるため、一律のプロモーションではなく、市場ごとに成約につながりやすい提案を行うことが重要です。市場別プロモーションと受入環境の改善をセットで進めることが、全体としての成約向上につながります。

OCVBは、今後も県内ステークホルダーとの連携のもと、海外からの多様なニーズに応えるべく、受入強化に努めます。

市場	タイ市場 開催日：令和8年8月5日 会場：Carlton Hotel Bangkok Sukhumvit	シンガポール市場 開催日：令和8年8月18日 会場：Grand Copthorne Waterfront Hotel Singapore	韓国市場 開催日：令和8年9月17日 会場：Koreana Hotel
商談数	13件	13件	10件
バイヤーの特徴	富裕層・VIP向けと企業インセンティブの双方を扱い、差別化を重視。競合先は中国。	企業インセンティブ旅行に特化。IT、金融、保険、製造、医薬関連が中心で、高価格帯への理解がある。	沖縄認知度が最も高く、送客実績のある事業者や具体的な商談段階のバイヤーが多い。
案件規模	10～30名の小規模から60～100名程度まで幅広い。	30～200名規模が主流。	200～300名規模の大型案件需要がある。
関心が高いコンテンツ	美ら海水族館ディナー、ガンガラーの谷、泡盛体験、産業視察、ゴルフ、ブルーゾーン、ウェルネス。	自然体験、沖縄文化、食、ユニークベニュー、やんばる、高付加価値プログラム。	ゴルフ、企業研修、産業視察、アート・文化、自然体験、ユニークベニュー、MICE支援制度。
購買判断・市場特性	「ここでしかできない体験」を重視。 「沖縄は気候が似ている」認識があり、海・リゾートだけでなく、特別感や限定感が必要。	フライト利便性、座席確保、DMC対応力、英語対応を重視。 高付加価値商品も検討、高所得層向け成長可能性高い。	新施設・宴会場・ゴルフ場情報や具体的モデルコースを求める。「知る段階」は過ぎ、「 どう売るか 」の段階にある成熟市場。
市場横断でみた高評価	・沖縄ならではの自然環境（海・やんばる）・食文化、伝統文化、地域体験 ・インセンティブ旅行やMICEとの親和性 ・ウェルネス/ブルーゾーン ・ユニークベニューの豊富さ ・本士とは異なるリゾート感と非日常性 ・支援制度		
共通する課題	・航空アクセス不足 ・宿泊料金の高騰 ・団体受入キャパシティ不足 ・大型案件向け輸送体制の不足 ・市場ごとに最適化された情報提供不足 ・小規模案件への支援不足		

<各地商談会の様子>



今後の展開：シンガポール市場、韓国市場の旅行社を招聘して、県内MICE関連事業者とのマッチング商談会を開催します。ぜひご取材下さい。

タイトル：「沖縄MICEプロジェクト2026」

会場：グランメルキュール残波岬

日時：令和8年12月10日(木)10：00～17：00

【お問い合わせ先】

(一財) 沖縄観光コンベンションビューロー

海外・MICE事業部 MICE推進課 担当：上地、比嘉、奥平

TEL：098-859-6130 Mail：mice@ocvb.or.jp